

2025 年5月9日

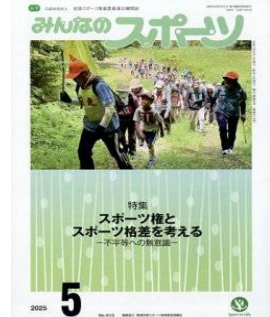
『みんなのスポーツ』 5月号(No.513)から学ぶ

林 但

平素より協議会の活動にご理解をいただきありがとうございます。

表記、公益社団法人 全国スポーツ推進委員連合機関誌の5号は「**スポーツ権とスポーツ格差を考える**」の特集号です。

私の視点で気づいたこと・感じた事、参考になる点を3点記載します。



- (1) 一番に印象に残ったのは「リーダー養成講習会」です。コロナ禍中止、家庭の事情で2回延期やと私もR4年に受講です。その時の記憶が鮮明に思い起こされました。表紙裏の写真をはじめ講義や討議などです。**委員の選出方法が全国には色々あること、取り組みもまた同様、それぞれの地域で培った経験や知識を共有し、互いに刺激しあいながら、新たな視点で学びを得る。熱い心の方が多いの**にうれしく思いました。終了後も同じグループの方とは今も時折情報交換や相談他を行っています。私が受講した時は1日目終了後に情報交換会がなく、通いで参加のため2時間以上かかるため自宅に戻りました。実は宿泊組を中心に仲間の人で都合のつく人は自主的に情報交換を行っていました。私がもったいなかったと思ったのは後のまつりでした。
- (2) 質問玉手箱「安全管理の基本姿勢とヒヤリ・ハット」 少子高齢化社会に突入し、地域におけるスポーツや健康づくりへの期待は高まるばかりです。4月から年度も変わり、新しくスポーツ推進委員になられた方もあります。スポーツの現場でも**“ヒヤリ・ハット”という言葉をよく耳にします。ヒヤリ・ハットとはケガや事故につながりない“ヒヤッとした”体験のこと**です。

振り返ってみれば勤めていた会社にはわが国の安全運動の中心的存在となって活躍した、「蒲生俊文さん」がおられ、安全管理には人一倍取り組んでいました。
ハインリッヒの法則「1:29:300」を忘れずに、これくらいは大丈夫だろう、という気持ちは捨て身近なヒヤリ・ハット体験からみんなで話し合っていくことが大事だと読んでいて強く感じました。コロナが第5類に移行して2年がたち平成の頃のように活動はできますが、委員も大きく世代変わりしています。
- (3) わが町の健康・体力づくり 秋田県大館市～ひとに優しい、ひとが優しいまちづくり「ポッチャのまち大館」～ この記事を読んで感じたことは、人口は横須賀市の約1/6であるが、推進委員が34名。市内外で行われる研修に自発的に参加して研鑽に励まれている。**地域住民との交流に軸足を置きながら、ポッチャを通して交流会、世代間交流に関わりやり方やルールを柔軟に変え、「こうしないといけない」ではなく、「こうしてみたら面白かった」という体験をできる。みんなに公開しているように工夫**していること。また、スポーツイベントを開催するだけでなく、**人が集まる場所に出向き、**

イベントに興味を持ってもらうように仕掛けているところは参考になりました。

今月号では3つの事に記載致しました、知っていることが多いと思う方もあるかもしれませんが、気づいたことでできることから始めて(行動)みませんか？

* **本冊子は有益で私たちの活動のヒントや答えがある**ように私は思います。年間購読されなかった方は、個別にも購入はできますので一度読んでみてください。問題意識や感度を高めていくと紹介されている事例が使える場合と横須賀ではこのままでは使えないがこうすればできる。こんな方法もあるなど20年近く購読していて思います。特にここ1、2年で**冊子内容が読者参加型の編集**になりました。

活動は是非一緒に取り組んでいきましょう！

以上